

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 倉吉西高等学校

重点項目	キャリア教育	提出日	平成31年4月 日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人財を育成する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>○キャリア教育の充実（チャレンジグループ活動の深化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をとおして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。 <p>○将来を見越した生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や人とのつながりを意識した生活習慣を身につける。 ・講演会等を通して人としての生き方を学ぶ。 <p><数値目標></p> <p>○チャレンジグループ活動S3アンケートで「知的な好奇心が高まった」「進路への好影響」がいずれも9割以上。</p> <p>○フィールドワークイン関西アンケートで「大変良い」「良い」の評価が8割以上。</p> <p>○シンガポール事後アンケートの回答で「大変良い」「良い」の評価が8割以上。</p> <p>○チャレンジグループ活動報告書の提出100%。</p>	<p>○キャリア教育の充実（チャレンジグループ活動の深化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジグループ活動報告書にガイドブック的要素（レポート・プレゼンテーションの作り方、卒業生のレポート掲載等）を盛り込んだことにより、レポート・プレゼンテーションの質を向上させることができた。 ・グループ別発表会に加え、全校発表会を設定したことで、自分の研究分野と異なる分野の研究を参考にすることができるようになった。 <p>○将来を見越した生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の数を整理し、かわりに情報発信の機会を設定することで、主体的学習の場面を増やすことができた。 <p><数値結果></p> <p>○チャレンジグループ活動S3アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的な好奇心が高まった：96.5% ・進路への好影響：89.4% <p>○フィールドワークイン関西アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8項目中6項目で8割超（8割未満は「吉本興業教育プログラム」「能」） <p>○シンガポール事後アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18項目中11項目で8割超（8割未満は「ホームビジット」「しおりの活用」「事前学習」「シンガポールでの情報収集」「英語を使う場面の増加」「ガイドさんへの質問」「小まめにメモ」 <p>○チャレンジグループ活動報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出100%。
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県版キャリア教育推進事業 	

【独自事業】

- ・学問・職業に関する講演会（S 1） ・研究テーマの関連施設の訪問（S 2、3）
- ・課題図書購入、個人研究論文作成 ・研究テーマに関する講演会
- ・活動成果発表会、大学教授指導助言等 ・卒業生による指導助言 ・大学等の研究内容の収集
- ・鳥取看護大学・鳥取短期大学連携 ・フィールドワークイン関西（S 2） ・シンガポール研修（S 2）
- ・フィールドワークイン鳥取（S 1） ・探究活動先進校視察

4 総合所見（成果・評価）

チャレンジグループ活動報告書にガイドブック的要素（レポート・プレゼンテーションの作り方、卒業生のレポート掲載等）を盛り込んだことにより、レポート・プレゼンテーションの質を向上させることができた。グループ別発表会に加え、全校発表会を設定したことで、自分の研究分野と異なる分野の研究を参考にすることができるようになったが、全校発表会～グループ別発表会という流れだったため、全校発表会の代表生徒は同じ発表を繰り返さざるを得なかった。来年度はグループ別発表会の時期を早め、グループ別発表会～全校発表会という流れにし、生徒が大学教授の指導助言を受けてプレゼンテーションの質を向上させられるようにするとともに、教職員の指導の重点を焦点化することで業務カイゼンを併せて実現するようにしたい。講演会の数を整理し、かわりに情報発信の機会を設定することで、主体的学習の場面を増やすことができた。来年度もこの流れを継続・拡張したい。

※枚数任意